

平成 27 年度 第 8 回 市長と語ろう！タウンミーティング 議事録
(市長と巡ろう！ 地域資源再発見ツアー 笠間クラインガルテン編)

開催日時 平成 27 年 11 月 7 日 (土) 午前 10 時 45 分～11 時 45 分

開催場所 笠間クラインガルテン クラブハウス

参加者 9 人

《フリートーク（意見交換）》

- 1 広報について
- 2 景観について
- 3 移住者の促進について
- 4 笠間の魅力について
- 5 定年退職者について
- 6 笠間クラインガルテンの付属施設について
- 7 職員の対応について

《内容》

- 1 広報について

【意見等】

今回の企画（市長と巡ろう！地域資源再発見ツアー）はいいと思うが、参加者が少ない。どのような広報を行ったのか。

【回答】

広報かさまやお知らせ版（週報）のほか、ホームページ、かさめ〜るなどいろいろな手段でお知らせしましたが、今回は 9 名の応募でした。

次回の開催である 11 月 21 日及び 29 日の申込者は多いです。

- 2 景観について

【意見等】

昨年の 12 月 28 日に笠間市に引っ越してきた。笠間市民としては 1 年に満たないが、それまでは東京都葛飾区に住んでいた。笠間稲荷神社の周辺は、人が住んでいない空き家が多く、また、以前は田んぼであったろうと思われる場所は、雑草が生えている。

笠間を訪れる観光客が空き家や耕作放棄地を見るとがっかりしてしまうと思う。場所によっては、耕作放棄地をコスモス畑やひまわり畑にして観光資源のようにしているところもあるので、もう少し景観を良くしたらいいと感じる。

【回答】

空き家の問題は、大きな課題となっています。市全体で見ても、この10年で笠間地区の人口が一番減少しており、その中でも街の中心部の人口が減っています。

空き家にも住める空き家と住めなくなっている空き家があり、市としては、住める空き家を持っている方と笠間に住みたい方にそれぞれ登録をしていただき、その仲立ちをして空き家の利活用をしています。空き家バンク制度では、10数件が成立していますが、それ以上に空き家が増えているのが現状です。

住めなくなっている空き家は、取り壊していただくのが一番ですが、経費がかかるということで、一定の条件を満たす場合には、一部補助をしています。持ち主になかなか了解していただけない場合もあります。笠間に住みたいと登録している人は100名ぐらいいますが、売りたい人が多く、貸してもよいという人が少ないので、そこが課題となっています。

また、畑や田んぼに雑草が生え、景観上良くない場所は確かにあり、コスモス畑やひまわり畑にしているところも市内には結構ありますが、荒れているところが目についてしまうというのはあると思います。本来は、草刈りをして適正に管理していただけるのが一番いいですが、持ち主の方の高齢化などにより難しくなっているのが現状です。一度荒れてしまい3、4年ぐらい手入れをしないと、田んぼとして戻すのは難しくなってしまうので、できるだけ荒れ地を増やさないように田んぼの集約化をし、耕作をしてくれる担い手を確保することで、これ以上増やさないようにする取組みをしています。

3 移住者の促進について

【意見等】

移住者の促進策についてだが、福島第一原発の事故で避難している人はまだいる。そのような方々に移住に向けた働きかけなどはしたことはあるのか。

【回答】

現在は行っていません。震災当時に公式ではありませんが、避難してきている方々を受け入れていました。今も一人いらっしゃいます。

避難してきている方々は、やはり地元がいいとおっしゃる方が多いので、なかなか定住までは結びつきません。

4 笠間の魅力について

【意見等】

笠間には日本に一つしかない合気道の神社がある。笠間は日本のちょうど中心に位置しているということで建立された。中心に位置しているから、農産物等は何でも育つ。だから、他でできないことも笠間ではできそうな気がする。

【回答】

この笠間クライנגアルテンはオープンしてから14年経っています。ここは、農業体験がメインとなっています。これからは、農業体験だけではなく、例えば、遊びでゴルフに行きたい人は週末ゴルフ場へ、生涯学習ということで勉強したい人は公民館や大学と連携して大学で学ぶ、ボランティアをしたい人は地域でボランティアを、また地域のイベントのお手伝いをするなど、さまざまな趣味や活動が取り組める都市型版のものが笠間の中でできないか構想を内部で議論しています。国が日本版CCRCというものを考えており、勉強させていただいています。

5 定年退職者について

【意見等】

定年退職しても元気である方が大勢いる。その方たちを笠間に引き込めないか。

【回答】

約100人の方が、笠間市に移住を求めています。第一線を退いても病気とかがなければ80歳ぐらいまでは、身体的にも元気で生活を送れると思います。空き家を借りるということではなく、クライングアルテンの都市型版のようなものをつくって、そのような方たちの受け皿にするというのも一つの方法だと思います。

6 笠間クライングアルテンの付属施設について

【意見等】

私たちは、笠間クライングアルテンでジャム作りをしている。今まで14年間、周りの方たちに支えられて続けてこられたのでとても感謝している。しかし、施設や設備が傷んできたし、私たちも体力的に厳しくなってきた。今後どうして行ったら良いか悩んでいる。

【回答】

笠間クライングアルテンの付属施設「楽農工房」は、ここがオープンしてから14年間農業の6次産業化のトップランナーで、当時は地元の農家の方々が集まって行った先駆的事業でした。そして、実績も高いと思っています。

何の商売でもそうですが、10年経つと初期投資したものが老朽化していく。ここで再投資して続けるか続けないか、拡大するか縮小するか、その判断の時期だとは思いますが、行政の立場から言うと、後継者の世代もいるので、ぜひ続けていってもらいたいと思っています。ただ、14年前とは状況が違い、どこでもジャム作りを行っているなど社会状況に変化があります。そこを工夫してやっていく新たな努力も必要になっていくと思いますが、それを乗り越えるだけの基礎的な要素はあると思うし、市も手伝っていくのでしっか

り話し合いをしていければと思います。

7 職員の対応について

【意見等】

先日、市役所に用事があり、電話でのやり取りと直接窓口で対応していただいた。その時の対応であるが、職員によって答えが違った。こちらとしては同じ回答がほしい。

【回答】

職員の対応については、考え方の一貫性を出すようにしていきます。改めて、指示を出させていただきます。